



# お客様のクラウドジャーニーを全面的にご支援

## ITトランスフォーメーションパッケージ2.0

諏佐 嘉之

マイグレーション&モダナイゼーション事業開発本部

シニアマイグレーションスペシャリスト

アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社

# 自己紹介



- 名前： 諏佐 嘉之
- 所属： マイグレーション&モダナイゼーション事業開発本部
- 経歴： 外資系ITベンダーにてデータベースを中心とした業務システムの提案や製品検証、顧客向けトレーニングのインストラクターなどに従事  
AWSでは大規模移行のソリューション開発・プリセールスを担当
- 好きなAWSサービス： Amazon Aurora、Amazon Redshift

# Agenda

- クラウド移行のトリガーと成功ポイント
- 脱炭素化社会への貢献
- クラウド移行包括支援プログラム「ITトランスフォーメーションパッケージ2.0」

# クラウド移行への牽引役

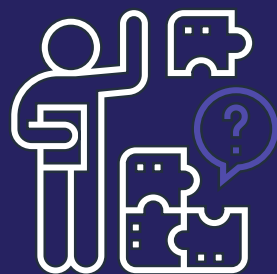


# クラウド移行 成功のポイント

お客様の事例から成功のポイントが明らかに



CxOなどリーダーによるコミットと  
社内外への宣言



移行プロジェクトのリーダーの任命  
クラウドチーム（CCoE）の設立と教育



トップダウンでの  
計測可能なゴールの設定



早く沢山経験を積む  
（検討し過ぎずアジャイルで）

# クラウド移行は脱炭素化社会に向けても大きな効果

企業データセンターからクラウド移行で二酸化炭素（CO2）排出量を**78%削減**の可能性

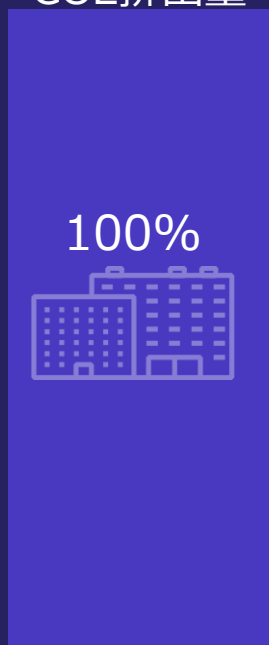
クラウドデータセンターは平均的な企業や公共機関の**約5倍のエネルギー効率**を達成

出典：451 Research of S&P Global Market Intelligence（2021年7月）



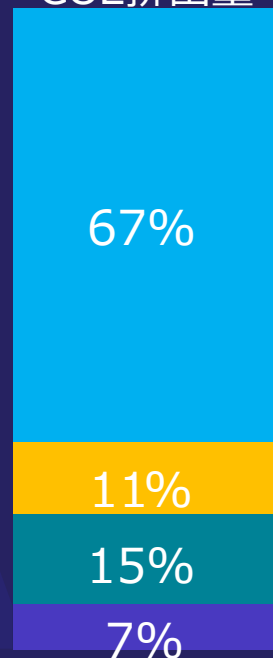
# 環境負荷軽減：半導体から送電網まで効率化

オンプレミス上の  
IT関連業務にかかる  
CO2排出量



78%

クラウド上の  
IT関連業務にかかる  
CO2排出量



**クラウドサーバーの使用でサーバーのエネルギー効率が5倍以上になり、67%以上のエネルギー削減**

**クラウドデータセンター施設で、より効率的に電力や冷却システムを使用し、さらに11%の削減が可能**

**再生可能エネルギーを調達した場合、CO2排出量をさらに削減可能**

# 再生可能エネルギー

2020年、Amazonは世界最大の再生可能エネルギー調達企業となり、事業全体における再生可能エネルギー利用率は65%に達しました。

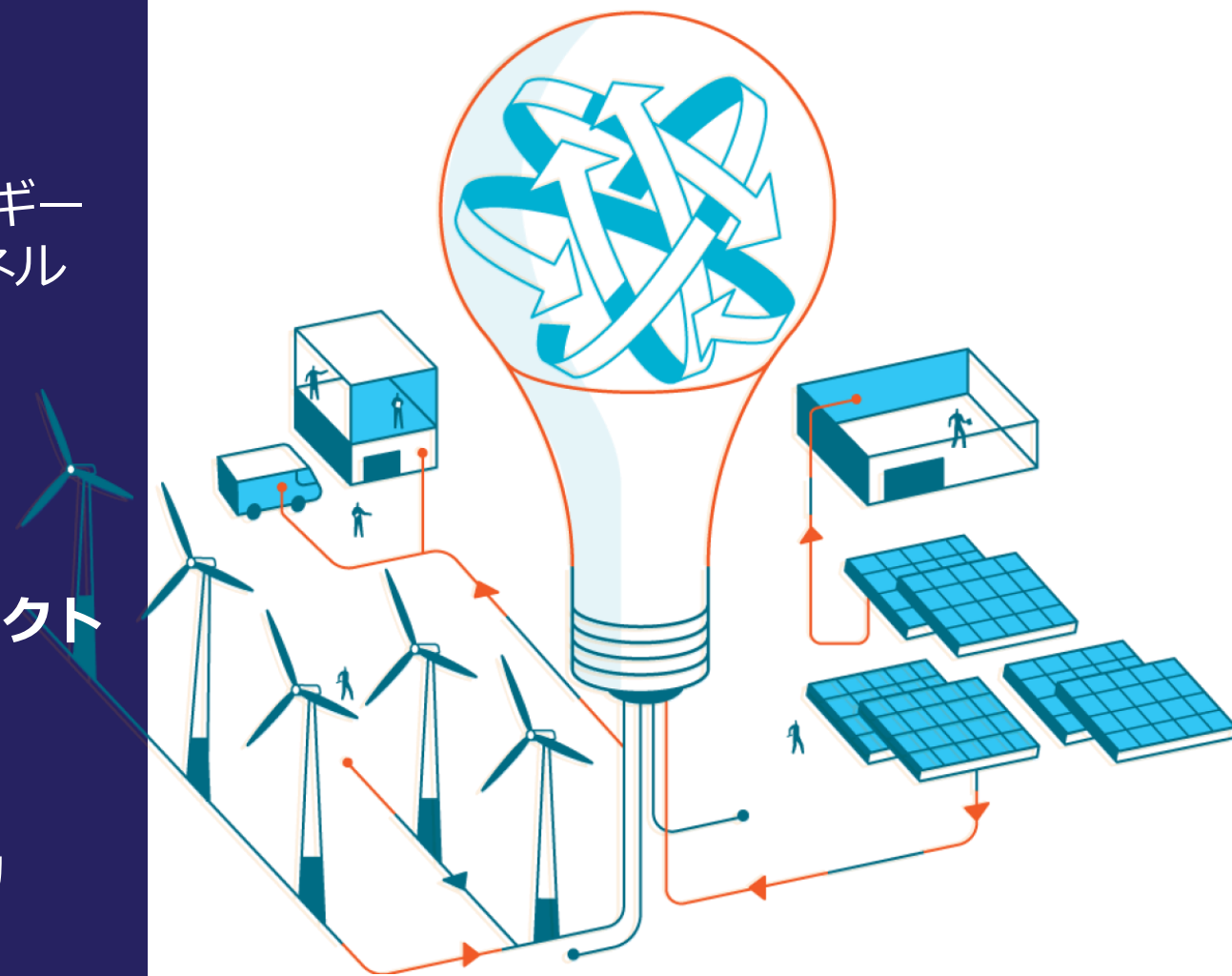
**232**の再生可能エネルギープロジェクト

**85**の実用規模の風力および太陽光発電プロジェクト

**147基**のオンサイト太陽光発電システム

**10,000MW**の再生可能エネルギー総生産能力

**2,700万MW/時**の再生可能エネルギー供給





# クラウド移行の道のり



# クラウド移行の道のり



# よくある質問

移行プロジェクトはいくらかかるのか？

何から始めたらいいのか？

何から移行させればいいのか？

移行後は何をしたらいいの？

何を残しておくべきなのか？

何をクラウドに移行すべきなのか？

どうやって移行するのか？

どのように人材を育成するのか？

# AWS ITトランスフォーメーションパッケージ2.0

クラウド移行決定

MAP2.0ご締結 (※)



# 評価フェーズのご支援プログラム（無償）

**クラウドエコノミクス（CE）**  
オンプレミス/他クラウドとAWSのTCO（総保有コスト）  
比較分析  
CO2排出削減量試算  
Migration Evaluator インフラ資産把握ツール（無償）




インフラ  
コスト  
削減  
(TCO)

**-10～90%**

※ボリュームゾーンは40%前後

AWSクラウドエコノミクス支援企業  
350社以上からの実績

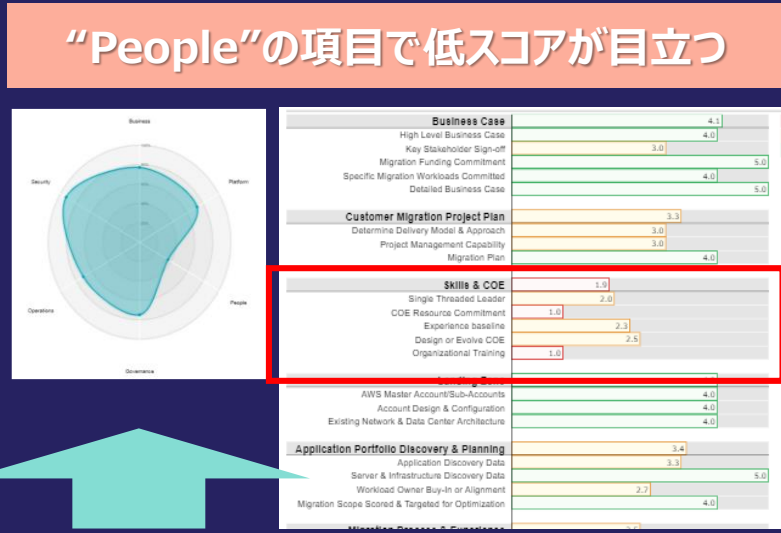


スタッフの  
生産性  
向上

**15～40%**

生産性の向上」試算支援企業  
250社以上からの実績

**マイグレーションレディネスアセスメント（MRA）**  
お客様の現状評価と推奨アクション提案



Cloud Adoption Frameworkのフレームワークに沿って、クラウド導入の準備度合いをレーダーチャートで表示

**アプリケーション ポートフォリオ アセスメント（APA）**  
クラウドへの移行難易度とクラウド適合度から移行パターンをご提示



システム群と移行パターンの対応付け



# 準備フェーズのご支援プログラム

最大の難所でクラウド移行が上手く進まない理由とITXパッケージ2.0でのご支援内容

社内にクラウド活用の技術  
スキルが無い/習得が進まない  
(システムインテグレーターにお任せ)

## クラウド推進組織確立

- ・クラウドコアメンバーの育成
- ・エグゼクティブからの支援

新しいものへの不安感で、  
クラウドが利用が進まない

## パイロット移行実施

- ・ノウハウや成功体験を得る
- ・クラウドメリットの浸透

全社的な  
クラウド移行プロジェクトの  
相談役がない

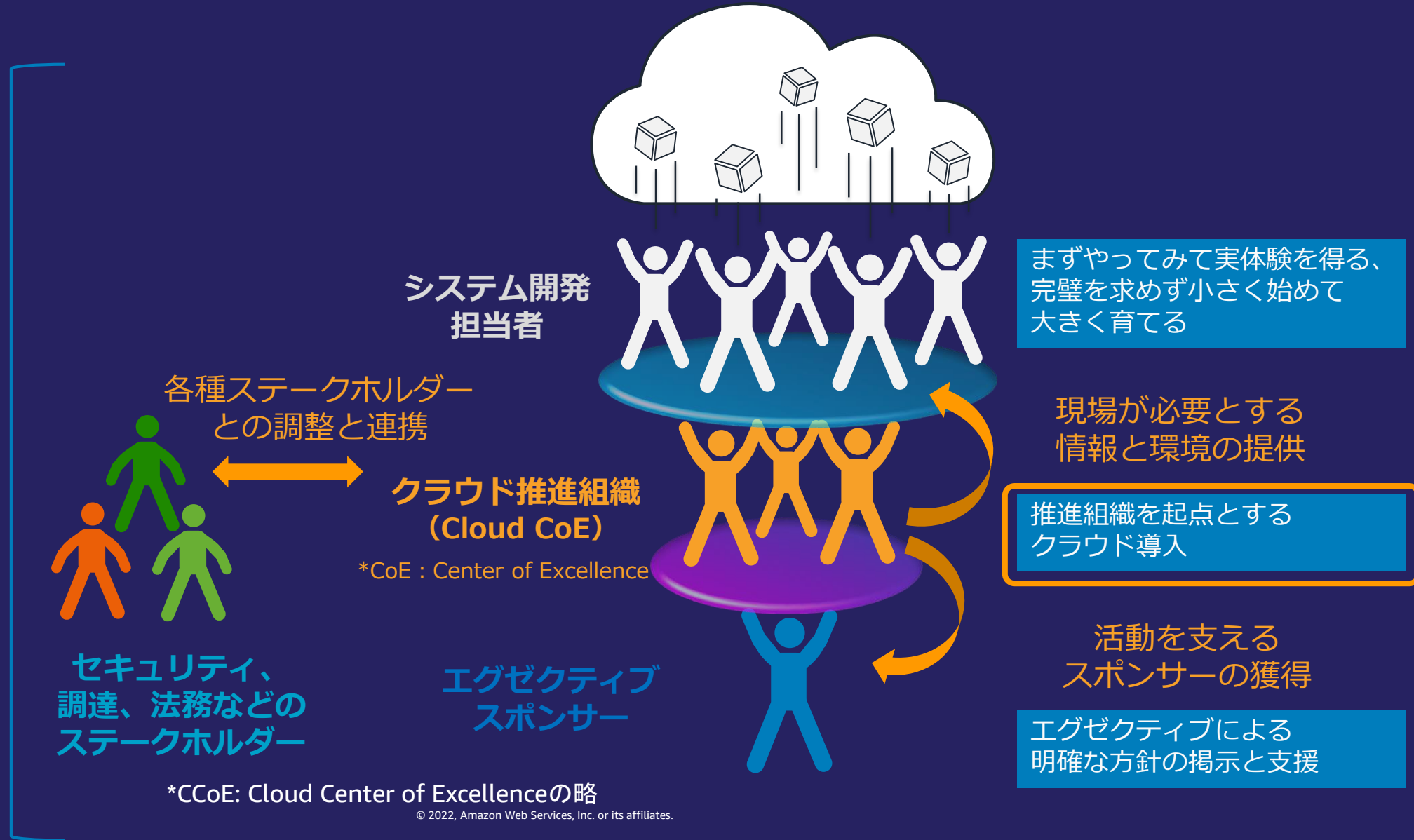
## 移行プロジェクトのサポート

- ・AWSのCSM<sup>(※)</sup>が移行プロジェクト推進をサポート



※Customer Solutions Managerの略称

# クラウド推進組織: Cloud Center of Excellence (CCoE) とは？



# クラウド推進組織の活動例

## ビジネス開発・サービス企画

- ・ ロードマップ策定
- ・ 推進組織(CoE)活動計画
- ・ サービスの企画、サービスメニュー開発
- ・ 社内AWS推進・営業活動

## 社内営業・調整

- ・ 社内AWS推進・営業活動
- ・ コンプライアンス部門との折衝
- ・ 社内向け説明会

## 基盤環境設計・構築・運用

- ・ 社内AWS基盤の設計・構築・運用
- ・ 社内AWS基盤に関するコスト管理
- ・ 基盤環境運用効率化・自動化

## 個別案件対応

案件相談受付・案件管理  
ビジネス部門に対する社内AWSコンサル  
設計・構築支援

## ガイドライン

ガイドライン作成・維持管理

## 社内向け教育

社内勉強会の実施  
社内向けAWS技術情報発信(社内Blog等)  
社内向け事例紹介

## 自身のスキル向上

トレーニング・ワークショップ受講  
ユーザー会参加  
資格取得  
社外イベント登壇

マインドチェンジ、  
変革の推進役



# CCoEの立ち上げでやるべきこと

## Tech

### コアメンバー育成のためのAWS(技術)トレーニング

- ・まずは「クラウド目利き」としてSIerやAWSのメンバーとのコミュニケーションが円滑に出来る「AWS認定ソリューションアーキテクトアソシエイト(SAA)」取得を目指す

## Non-Tech

### 推進組織の立ち上げ

- ・ビジネスKPIと組織KPI設定の関連付け、推進組織のToBe像策定、CCoEの組織Roles & Responsibility定義、活動計画とロードマップの作成などなど
- ・AWSプロフェッショナルサービス(有償)に該当のご支援メニューあり

# ITXパッケージ2.0に含まれる支援内容

## AWSトレーニングバウチャー(利用券)のご提供

- CCoEの中心メンバー/クラウド目利きであるITスタッフを育成
- AWS認定ソリューションアーキテクトアソシエイト × 3名分相当

## AWS プロフェッショナルサービス利用サポートのご提供

- 評価フェーズで実施の「マイグレーションレディネスアセスメント(MRA)」の要改善項目を解決可能
- AWS プロフェッショナルサービスのご支援メニューの費用を一部サポート(\*)
- 「CCoE立ち上げ」だけでなく、お客様の状況に合わせた別メニューにもご利用可能

\* AWSサポート分と同等以上の有償プロフェッショナルサービスご利用が前提条件、サポート上限額あり



# パイロット移行実施サポート(EBA)

## パイロット移行の対象となるプロジェクトの選定

- プロジェクト(システム)の選定と移行方式の決定
  - クラウド適合性の高い1～3システムを選定



## 体験型ワークショップ Experience-Based Acceleration(EBA)

### で移行実施

- AWSのCSMやコンサル、ソリューションアーキテクトが移行をサポート
- 本格移行時にも役立つ「ノウハウ」と「成功体験」を得られる
  - 移行経験を得てSIerとのコミュニケーションも円滑に

# 「型」に応じたワークショップの実施

「型」  
の分類

プラットフォーム  
パーティー



クラウド基盤構築

マイグレーション  
パーティー



アプリケーションの  
クラウド移行

モダナイゼーション  
パーティー



アプリケーション  
モダナイゼーション

ポートフォリオ  
パーティー



移行全体計画  
費用効果算定

ピープル  
パーティー



クラウドネイティブ  
対応組織への変革

# 移行フェーズとそれ以降のご支援プログラム

## クラウド移行開始

### 特別 インセンティブ

#### ファイナンスインセンティブ “MAP2.0クレジット”

- ・移行により発生したAWS利用増に対し、3年間一定割合のAWSクレジット(利用料に充当可)を提供

### IT Divest

#### クラウド移行に伴い不要になるハードウェアの買取を仲介

- ・安全かつ環境に配慮した方法で再利用または廃棄

## モダナイゼーション

### CO2排出量モニタリング、 分析、将来予測

#### AWS Customer Carbon Footprint Tool

- ・お客様のAWS利用実績によるCO2排出量のモニタリング、分析、将来予測を提供

### モダナイゼーション (EBA)

#### 体験型ワークショップで、モダナイゼーション移行経験

- ・既存アプリケーションをアセスメントして、実際にモダナイゼーション移行を体験

### 継続的コスト削減

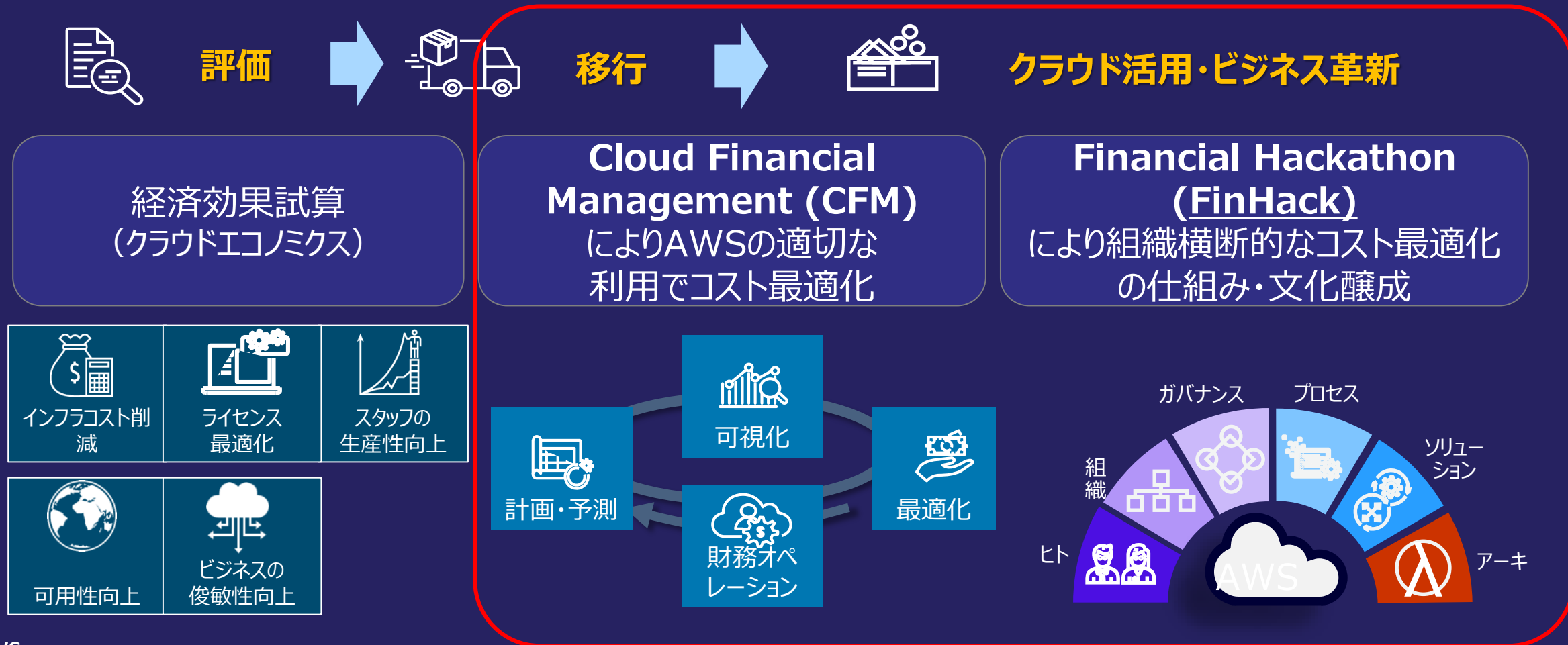
#### Cloud Financial Management(CFM)でコスト最適化

- ・移行完了後もAWSサービスの適切な利用でコスト最適化



# Cloud Financial Management(CFM)

AWS Cost Explorerでデータを収集/分析し、コスト削減を提案  
お客様がその案を実行した後、コスト削減の推移を報告、以後のアクションの計画を立てる



# 株式会社NTTドコモ

## Cloud Financial Management (CFM)プログラムの活用で、より一層のコスト最適化を図り12%削減を実現

### ビジネス要件

- 既存のAWSコストをSavings Plansの購入などにより既に40%削減済であったが、目標値に向けてはさらなるコスト削減が必要であった
- コスト削減を継続的に実施するためにAWSのコスト管理の知見をメンバーに浸透させることが必要であった

### ソリューション

- CFMプログラムによる支援を通して、Savings Plansにとどまらない、スポットの適用、インスタンスの最新世代への切り替え、EBSボリュームの削減を実施
- FinHackワークショップを通して、AWSコスト最適化手法・ベストプラクティスを把握し、様々なチームへ横展開することができ、メンバーの知識レベルを高めた

### 効果と今後の展開

- 12%のさらなるコスト削減を実現**
- 費用可視化とガバナンスを強化するためのタグを実装
- 今後、最新世代のインスタンスへ移行予定

AWSを利用しているチームはたくさんありますが、コスト最適化のためのスキルレベルが様々であるためコスト最適化の取組が各々異なっています。CFMフレームワークを学びコスト最適化の取組を標準化することで、当初計画していた予算よりも費用を節約することができます。これにより新たな予算を取得せずに新しい投資ができます。これは非常に重要なことです。

株式会社NTTドコモ サービスデザイン部 第三クラウド推進 担当部長 三井力氏

NTTドコモで保有している大規模コンシューマシステムにおいて、サービスレベルとランニングコストのバランスは非常に重要な問題となります。CFMの支援により、サービスレベルを維持したまま大幅なコスト削減に成功しました。アーキテクチャのモダナイゼーション、新たなManaged Servicesの導入など、今後もサービスの成長にご支援いただければと思います。

株式会社NTTドコモ サービスデザイン部 第一クラウド推進 担当課長 壺井雅史氏



## 株式会社NTTドコモ

業種: 通信事業、スマートライフ事業、その他事業  
従業員数: 単体 8,100名  
ドコモグループ 27,558名  
(2020年3月31日現在)

日本最大の移動体通信事業者であり、LTEや5Gなどの先進的なワイヤレスネットワークを通じて、7,300万人以上の利用者にモバイルテクノロジーを提供しています。

携帯電話会社と連携することで、スマートモバイルテクノロジーを開発しています。

<https://www.nttdocomo.co.jp/>

### ご利用中の主なAWSサービス

Amazon EC2	AWS Lambda
Amazon RDS	Amazon Dynamo DB
Amazon EBS	AWS Fargate
Amazon S3	Amazon ECS/EKS
Amazon Kinesis	





# まとめ

- クラウド移行はDXを推進させる 1 つの取り組み
- 準備フェーズは最大の難所、しっかりとした準備が必要
- Cloud Center of Excellence (CCoE) 設立、ITスタッフ育成、移行計画の策定などやるべきことは多数
- ITXパッケージ2.0を活用して、脱炭素化に貢献しつつ、コストを下げながら移行を加速可能
- クラウド移行で終わりでなく、その先、CFMによる更なるコスト削減、EBAによるモダナイゼーション移行の体験を通して、クラウドネイティブ化への準備も視野に



ITトランスフォーメーションパッケージ2.0にご興味を持たれたら、  
AWS担当営業までぜひお気軽にお問合せください。





# Thank you!